

巻頭言

錦秋の候、読者の皆様は如何お過ごしでしょうか？ 例年この時期になりますと、ノーベル賞が話題に上ります。物理学賞にはヒッグス粒子の存在を理論的に予言したヒッグス教授が受賞されましたが、その他の分野でも今のところ日本からの受賞者はないようです。文学賞に村上春樹氏が候補に挙がっていますがまだわかりません。本号が出る頃には明らかになっているでしょうが、その結果は如何に……

日本中医学会のメインイベントである第3回学術総会が盛会のうちに終了しました。会頭は吉富誠先生で（吉富復陽堂医院院長）、メインテーマは「少子化問題を解決する中医学」でした。シンポジウムや特別講演では不妊症や出産前後の諸症状、あるいは新生児疾患などに対する中医学の診断治療法について活発に議論されました。私の専門分野と異なりましたが、中医学の効果に改めて驚いた次第です。まだ小さいお子様のいらっしゃる吉富先生の会頭講演のお話はユーモラスであり、豊かな経験にもとづいた中身の濃い講演でした。また、恒例になりましたが、中国、台湾、韓国からも多くの参加者があり、国際色豊かな学術総会になってきました。

さて、会員の皆様にお詫びとご報告をしなければなりません。お気づきになったと思いますが、前号が発刊できませんでした。連載の論文やエッセイは準備できましたが、原著論文が集まらなかったのです。これまで原稿集めや査読等は小生が一手に引き受けておりましたが、昨年度から工学部と医学部（日本大学）の兼任になり忙殺されておりました。いずれにしろ発刊できなかったことは編集長の責任であり、ここに謹んでお詫び申し上げます。そして本学術誌を充実させるために、篠原昭二理事（明治国際医療大学伝統鍼灸学教授）と別府正志評議員（東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター講師）に副編集長になっていただくことにしました。会員の皆様には、原著論文、総説、症例報告など多くの論文を投稿していただき、本学術誌をもり立てて下さるよう切にお願いいたします。

2013年10月

日本中医学会理事長

日本中医学会雑誌 編集委員長

酒谷 薫